

2014年

秋の課題作文優秀作品【生徒の部】

長津田校 S・Mさん（田奈中）

ふれあいの丘校 Y・Rくん（荏田南中）

僕はこの批判に反対します。おそらく指摘している人は外国に長期間滞在したことがないのでしょう。僕はあります。三年間香港に住んでいました。そこで、礼の大切さを強く感じさせられました。

僕が通っていた学校はインターナショナルスクールで、「多国籍」の学校でした。そこに入った日本人は、少なからず違和感を覚えることがあります。日本人以外は誰一人として「頭を下げない」のです。礼儀を身ぶり手ぶりで表すことをしないのです。「形式的」な礼に反対する人は、それさえない世界を想像したことがあるのでしょうか？毎日毎日抑揚のない声で、聞き飽きた言葉を発するだけの「あいさつ」を聞かされ続ける気持ちを考えてたことはあるのでしょうか？「形式的」な礼儀でも心に思うことを伝えることはできます。笑顔で頭を下げてあいさつをすれば、敬意や親しみの心を伝えることができます。大切なのは、日本は特別だということです。例えば香港では、謝罪する意味をもつ言葉がありません。すれちがいざまに肩が当たって、謝りたくても言葉にできないのです。たいてい双方が舌打ちをして、険悪なムードになります。日本では、身ぶり手ぶりで謝罪して「礼」をすれば快く許してもらえます。

確かに礼は形式的なものです。しかし、それによって感情を伝えることができるということをお忘れはいけません。

ある日、私は買い物をするためにコンビニへ行き、会計を済ませようと、レジの前に立った。すると、店員はため息をつき、淡々と作業を進め、最後に「ありがとうございます」と小さく、吐き捨てるように言った。私は「このコンビニをもう一度利用したい」とは思わなかった。

確かに、礼をするかしないかでは、する方が良いに決まっている。しかし、あまりにも心が込もっていない礼は、相手を不快にしまうだけではないだろうか。

よく、学校の朝会などで先生が号令をかけた時、「声が小さいので、やり直し」と言われた。すると、皆はただ声を大きく、さらに、苛立った様子で、もう一度礼をする。先生はこれで満足したかのように、朝礼を進めていくことが多いが、本当にそれで良いのだろうか。「言われたから、仕方なくやる」という礼は、果たして本当に「礼」なのだろうか。

先日、テレビ番組で、給食の時間に「いただきます」を言わせるな、と言う親がいると報じていた。私は、最初その意味が理解できず、調べてみると「給食は、親が食費を払って、子供に食べさせているものだから、「いただく」というのは間違っている」ということらしい。その親たちは、きつと「いただきます」を形式的に考えすぎているのだろう。「いただきます」という言葉の中には「作ってくれた人への感謝」や「命をいただく」という意味の「心」が込められていると私は思う。

例えば、声が小さくても、そこに「心」が込められていれば、私はそれで良いと思う。また、普段「礼」として使っている言葉の意味を、もう一度見直すべきだ。

だから私は「礼は形だけにとらわれて本当に大切な何かを失いがちになる」という批判に賛成する。